



追加型投信 / 内外 / 債券

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド

(為替リスク軽減型) / (為替ヘッジなし)

年初来の運用状況について

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2018年4月27日

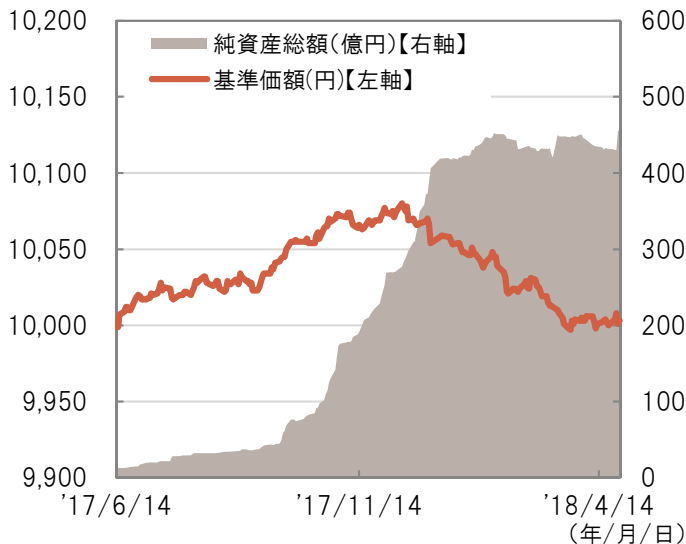
- ・本資料内ではファンドの名称について、ピムコ ショートターム・インカム・ファンド(為替リスク軽減型)を「(為替リスク軽減型)」、ピムコ ショートターム・インカム・ファンド(為替ヘッジなし)を「(為替ヘッジなし)」という略称で記載する場合があります。
- ・本資料内において、「PIMCOショートターム戦略」を「ショートターム戦略」、「PIMCOインカム戦略」を「インカム戦略」、「PIMCOショートターム・インカム戦略」を「ショートターム・インカム戦略」と省略して記載する場合があります。

平素より、「ピムコ ショートターム・インカム・ファンド(為替リスク軽減型) / (為替ヘッジなし)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
本資料では、2018年初来の運用状況についてご説明いたします。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(為替リスク軽減型)基準価額等の推移

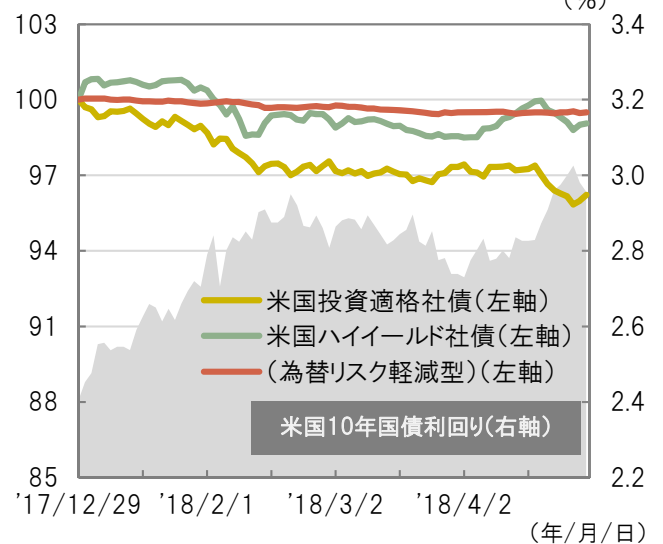
<設定来>の基準価額の推移

(期間: 2017年6月14日~2018年4月27日)



<2018年初来>の(為替リスク軽減型)および その他資産のパフォーマンス、米国10年国債利回りの推移

(期間: 2017年12月29日~2018年4月27日)



- ・(左図) 基準価額(1万円当たり)は、信託報酬控除後のものです。
- ・(右図) その他資産のパフォーマンスは、(為替リスク軽減型)とその他資産の値動きの違いをお示しすることを目的として掲載しています。なお、(為替リスク軽減型)は基準価額を指数化したものを、米国投資適格社債および米国ハイイールド社債は円ヘッジベースを使用しています。
- ・(右図) (為替リスク軽減型)およびその他資産のパフォーマンスは、2017年12月29日=100として指数化しています。
- ・(右図) 計測期間が異なる場合は結果も異なる点にご注意ください。
- ・(右図) 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

(出所) Bloomberg, BofA Merrill Lynchのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

【年初来の市場環境と基準価額の推移について】

主な債券セクターの年初来におけるパフォーマンスについては、米国投資適格社債が3.78%の下落、米国ハイイールド社債が0.94%の下落(いずれも円ヘッジベース)となりました。

米国10年国債利回りは年初来から4月27日時点で0.55%上昇しました。結果として、相対的に金利リスクが大きく(デュレーションが長く)、信用格付けが高い米国投資適格社債が大きく下落しました。

一方で、相対的に信用格付けの低い米国ハイイールド社債は、年初来において下落しましたが、4月に入りスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が縮小(価格が上昇)したことにより、足下では堅調に推移しました。

こうしたなか、(為替リスク軽減型)の基準価額は年初来で0.51%(51円)の下落となりました。

(出所) ピムコのコメントを基に三菱UFJ国際投信作成

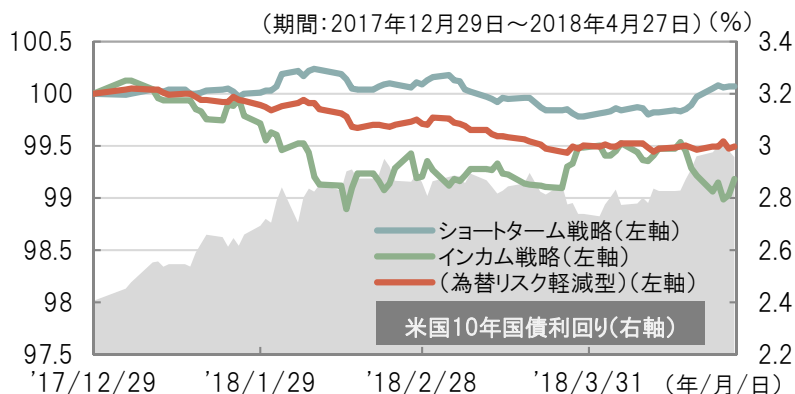
■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）

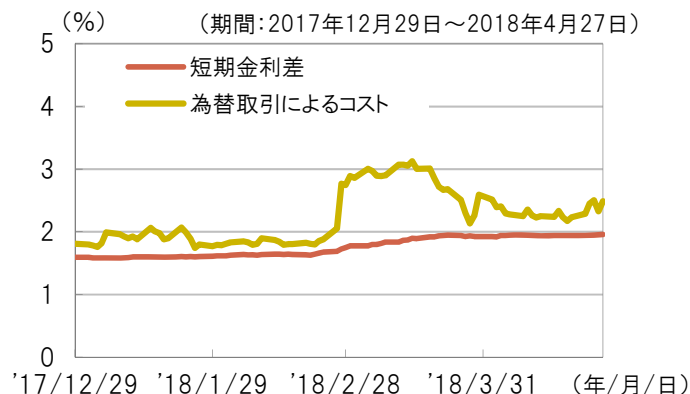
＜2018年初来＞の（為替リスク軽減型）、各戦略のパフォーマンス等の推移について

・下記のショートターム戦略、インカム戦略のパフォーマンスは、（為替リスク軽減型）の投資先ファンドであるバミューダ籍ファンド「ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ(JPY)」、「ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY(JPY)」の実績（報酬控除前、現地日付ベース）をそれぞれ使用しています。なお、（為替リスク軽減型）の基準価額は、前営業日の投資先ファンドの数値（基準価額）を適用し算出される点にご留意ください。

（為替リスク軽減型）、各戦略のパフォーマンス
および米国10年国債利回りの推移



米ドル円の短期金利差と
為替取引によるコストの推移



・(左図)（為替リスク軽減型）および各戦略のパフォーマンスは、2017年12月29日=100として指数化しています。・(左図)計測期間が異なる場合は結果も異なる点にご留意ください。・(右図)短期金利差は、米国および日本の1ヵ月LIBORを用いて算出しています。・(右図)為替取引によるコストは、米ドル円の直物レートと先物(1ヵ月)レートから三菱UFJ国際投信が算出したものであり、ピムコ ショートターム・インカム・ファンド(為替リスク軽減型)にかかる実際の為替取引によるコストとは異なります。

(出所)ピムコ、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

【足下の各戦略、為替取引によるコストの状況について】

ショートターム
戦略

2018年4月の月初来でのショートターム戦略のパフォーマンスは、0.29%の上昇となりました。4月の債券市場は、米国10年国債利回りが急激に上昇した一方で、前述のように米国ハイイールド社債を中心に社債のスプレッドは縮小しました。また、米国投資適格社債のスプレッドも縮小したことから、金利上昇の影響を抑制しつつ、両債券セクターへの投資を行っていた結果として、金利リスクを抑制したショートターム戦略がプラスターンとなりました。

インカム
戦略

2018年4月の月初来でのインカム戦略のパフォーマンスは、0.30%の下落となりました。米国政府関連債などへの投資を通じて一定程度の金利リスクを取っていたことが、マイナスに影響しました。デューレーションを2.3年(2018年3月末時点)とし、他の債券市場と比較して引き続き金利リスクを抑制した状態にありましたが、4月に入ってから急激な金利上昇による影響を一定程度受けるかたちとなりました。一方で、米国住宅市場の回復の恩恵を受け易い米国非政府系モーゲージ証券や良好な景気環境に下支えされる米国ハイイールド社債やバンクローンへも一部投資を行っていたことがプラス要因となりました。

為替取引
によるコスト

2018年3月にかけて、米ドルに対する季節性の需給要因から為替取引によるコストが上昇する局面もありましたが、足下では需給要因による影響は低下しています。一方で、FRB(米連邦準備制度理事会)は3月に利上げを行っており、年初来で日米の金利差が拡大したこと等が為替取引によるコストの上昇につながりました。

【今後の見通しと運用方針】

2018年4月に入り、米国10年国債利回りが急激に上昇したことが、特にインカム戦略のパフォーマンスのマイナス要因となりました。ピムコでは、2018年中の同利回りは2.5～3.5%のレンジで推移すると予想していますが、2018年4月27日時点では2.96%と約4年ぶりの水準にまで上昇していることから、年を通じての利回り上昇ペースは緩やかなものになると考えています。また、今後の景気動向や見通しによっては同利回りが低下する局面も想定されます。

スプレッドについては、今後も景気見通しが強い状況が続く環境下では縮小余地もあり、2018年1月から2月に見られたような、金利上昇とスプレッドの拡大が同時に発生することで債券市場全般が下落するという最悪シナリオの可能性は低下しているものと考えています。

ショートターム・インカム戦略についても、金利上昇のペースが緩やかとなる中でスプレッドが拡大した社債投資などから新たな収益機会を追求することが可能になると考えています。

・コメントおよび運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

(出所)ピムコのコメントを基に三菱UFJ国際投信作成

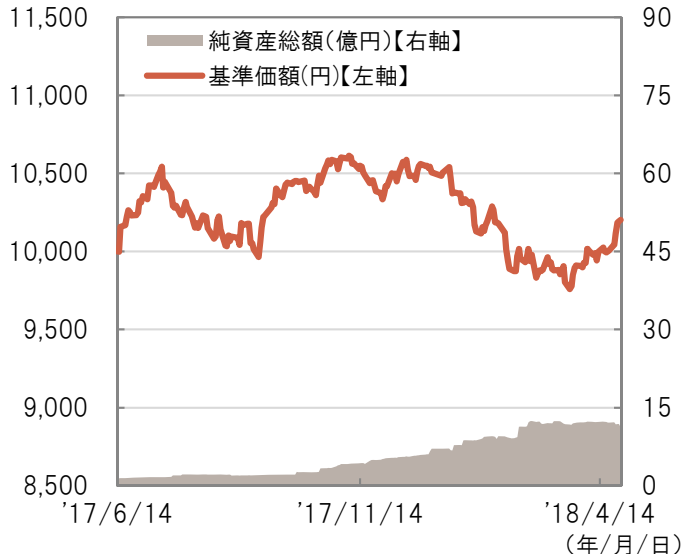
■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド (為替ヘッジなし)

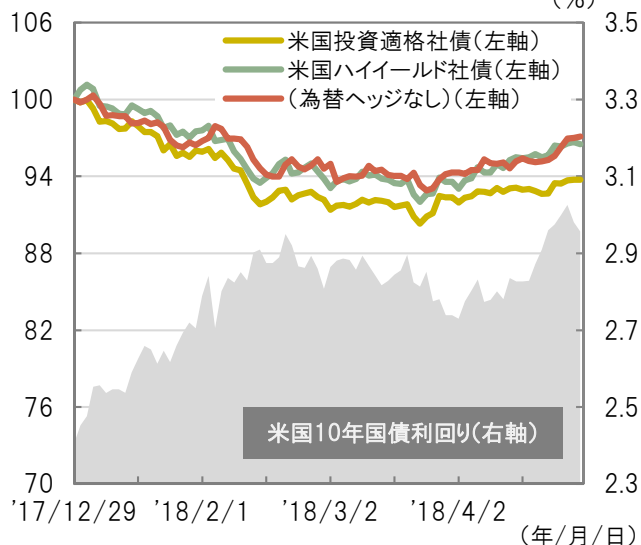
(為替ヘッジなし)基準価額等の推移

<設定来>の基準価額の推移

(期間:2017年6月14日~2018年4月27日)

<2018年初来>の(為替ヘッジなし)および
その他資産のパフォーマンス、米国10年国債利回りの推移

(期間:2017年12月29日~2018年4月27日) (%)



- ・(左図)基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。
- ・(右図)その他資産のパフォーマンスは、(為替ヘッジなし)とその他資産の値動きの違いをお示しすることを目的として掲載しています。なお、(為替ヘッジなし)は基準価額を指数化したものを、米国投資適格社債および米国ハイイールド社債は米ドルベースを三菱UFJ国際投信が円換算したものを使用しています。
- ・(右図)(為替ヘッジなし)およびその他資産のパフォーマンスは、2017年12月29日=100として指数化しています。
- ・(右図)計測期間が異なる場合は結果も異なる点にご注意ください。
- ・(右図)上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

(出所)Bloomberg、BofAメリルリンチのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

【年初来の市場環境と基準価額の推移について】

主な債券セクターの年初来におけるパフォーマンスについては、米国投資適格社債が6.26%の下落、米国ハイイールド社債が3.48%の下落(いずれも円ベース)となりました。

米国10年国債利回りは年初来から4月27日時点で0.55%上昇しました。結果として、相対的に金利リスクが大きく(デュレーションが長く)、信用格付けが高い米国投資適格社債が大きく下落しました。

一方で、相対的に信用格付けの低い米国ハイイールド社債は、年初来において下落しましたが、4月に入りスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が縮小(価格が上昇)したことにより、足下では堅調に推移しました。

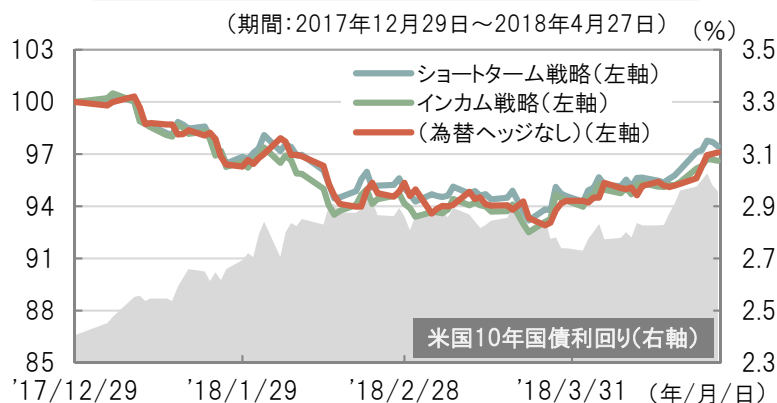
こうしたなか、年初来において円高・米ドル安の展開となったことから、(為替ヘッジなし)の基準価額は年初来で2.89%(304円)の下落となりました。

(出所)ピムコのコメントを基に三菱UFJ国際投信作成

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替ヘッジなし）

<2018年初来>の(為替ヘッジなし)、各戦略のパフォーマンス等の推移について

・下記のショートターム戦略、インカム戦略のパフォーマンスは、(為替ヘッジなし)の投資先ファンドであるバミューダ籍ファンド「ピムコ ショートターム ストラテジー - クラスJ(USD)」、「ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY(USD)」の実績(米ドルベース、報酬控除前、現地日付ベース)を三菱UFJ国際投信が円換算したものをそれぞれ使用しています。なお、(為替ヘッジなし)の基準価額は、前営業日の投資先ファンドの数値(基準価額)を適用し算出される点にご留意ください。

(為替ヘッジなし)、各戦略のパフォーマンス
および米国10年国債利回りの推移

・(左図) (為替ヘッジなし)および各戦略は2017年12月29日=100として指数化しています。
・(左図)計測期間が異なる場合は結果も異なる点にご留意ください。

米ドル(対円)の推移



(出所)ピムコ、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

【足下の各戦略、為替相場の状況について】

ショートターム
戦略

2018年4月の月初来でのショートターム戦略のパフォーマンスは、3.04%の上昇となりました。4月の債券市場は、米国10年国債利回りが急激に上昇した一方で、前述のように米国ハイイールド社債を中心に社債のスプレッドは縮小しました。また、米国投資適格社債のスプレッドも縮小したことから、金利上昇の影響を抑制しつつ、両債券セクターへの投資を行っていた結果として、金利リスクを抑制したショートターム戦略がプラスリターンとなりました。また、月初来において、為替相場が円安・ドル高となったことが、プラスに寄与しました。

インカム
戦略

2018年4月の月初来でのインカム戦略のパフォーマンスは、2.43%の上昇となりました。米国政府関連債などへの投資を通じて一定程度の金利リスクを取っていたことが、マイナスに影響しました。デューレーションを2.3年(2018年3月末時点)とし、他の債券市場と比較して引き続き金利リスクを抑制した状態にありましたが、4月に入ってから急激な金利上昇による影響を一定程度受けるかたちとなりました。一方で、米国住宅市場の回復の恩恵を受け易い米国非政府系モーゲージ証券や良好な景気環境に下支えされる米国ハイイールド社債やバンクローンへも一部投資を行っていたことがプラス要因となりました。また、月初来において、為替相場が円安・ドル高となったことが、プラスに寄与しました。

為替
相場

2018年初来から4月末までにおいて、米ドルは対円で下落する円高・米ドル安の展開となりました。ムニューシン米財務長官のドル安容認発言や2月の世界的な株価急落によって市場のリスク選好姿勢が後退したことなどが円高・米ドル安の要因となりました。4月初来においては、円安・ドル高となりました。

【今後の見通しと運用方針】

2018年4月に入り、米国10年国債利回りが急激に上昇したことが、特にインカム戦略のパフォーマンスのマイナス要因となりました。ピムコでは、2018年中の同利回りは2.5~3.5%のレンジで推移すると予想していますが、2018年4月27日時点では2.96%と約4年ぶりの水準にまで上昇していることから、年を通じての利回り上昇ペースは緩やかなものになると考えています。また、今後の景気動向や見通しによっては同利回りが低下する局面も想定されます。

スプレッドについては、今後も景気見通しが強い状況が続く環境下では縮小余地もあり、2018年1月から2月に見られたような、金利上昇とスプレッドの拡大が同時に発生することで債券市場全般が下落するという最悪シナリオの可能性は低下しているものと考えています。

ショートターム・インカム戦略についても、金利上昇のペースが緩やかとなる中でスプレッドが拡大した社債投資などから新たな収益機会を追求することが可能になると考えています。

・コメントおよび運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

(出所)ピムコのコメントを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）／（為替ヘッジなし）

【ファンドの目的】

世界の幅広い種類の公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。

【ファンドの特色】

特色1 世界の幅広い種類の公社債等を実質的な主要投資対象とします。

◆円建外国投資信託^{*1}への投資を通じて、世界の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等^等に実質的な投資を行います。

*1 円建外国投資信託の名称は以下の通りです。

（為替リスク軽減型）：ピムコ ショートターム ストラテジー — クラスJ(JPY)／ピムコ バミューダ インカム ファンド A — クラスY(JPY)

（為替ヘッジなし）：ピムコ ショートターム ストラテジー — クラスJ(USD)／ピムコ バミューダ インカム ファンド A — クラスY(USD)

◆世界の幅広い種類の公社債等とは、国債／政府機関債／社債／モーゲージ証券等の証券化商品^{*2}／バンクローン^{*3}／転換社債などです。また、投資適格未満の公社債や新興国の発行体が発行する公社債などにも投資を行う場合があります。

*2 証券化商品とは、住宅ローンや自動車ローンなどの資産とその資産から発生するキャッシュフローを担保として発行される有価証券をいいます。また、モーゲージ証券とは、住宅ローン等の債権を担保として発行される有価証券のことをいいます。

*3 バンクローンとは、銀行等の金融機関が主に投資適格未満の事業会社等に対して行う貸付債権（ローン）のことをいいます。

※派生商品については金利スワップ取引等に投資を行います。

※上記の公社債等が組入れられない場合や、上記以外の有価証券等が組入れられる場合があります。

※モーゲージ証券等は、金利が低下した場合、一般的に期限前償還が増加する傾向にあります。

特色2 「PIMCOショートターム戦略」への投資配分を70%、「PIMCOインカム戦略」への投資配分を30%とすることを基本とします。

※上記の組み合わせを「PIMCOショートターム・インカム戦略」といいます。

◆PIMCOショートターム戦略とは、米ドル建ての投資適格債券を中心に投資を行うことに加えて、金利・信用リスクを抑制することにより、投資元本の保全と流動性の維持に配慮しながら、利子収益の確保をめざす運用戦略です。

※ピムコ ショートターム ストラテジー — クラスJ(JPY)／(USD)は、当該運用戦略を採用しています。

◆PIMCOインカム戦略とは、世界中の多様な債券セクターの中から、ピムコが「利回り水準」と「債務返済能力」等を勘案して選定した有価証券等に投資を行い、利子収益の確保と長期的な値上がり益の獲得をめざす運用戦略です。

※ピムコ バミューダ インカム ファンド A — クラスY(JPY)／(USD)は、当該運用戦略を採用しています。

特色3 投資信託証券への運用の指図に関する権限を、ピムコジャパンリミテッドに委託します。

◆ピムコジャパンリミテッドは、ピムコが運用する円建外国投資信託（世界の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等に投資）への投資の指図を行います。

◆ピムコ(PIMCO=Pacific Investment Management Company LLC)は1971年に米国で設立された債券運用に強みを持つ会社です。ピムコジャパンリミテッドは、PIMCOグループの日本における拠点です。

※運用の指図に関する権限の委託を受ける者、委託の内容、委託の有無等については、変更する場合があります。

特色4 （為替リスク軽減型）、（為替ヘッジなし）の2つがあります。

◆（為替リスク軽減型）は、原則として投資する外国投資信託において、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

・実質的な通貨配分にかかわらず、米ドル売り円買いの為替取引を行うため、実質的な組入通貨のうち、米ドル以外の通貨については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けます。

・為替取引を行う場合で円金利が米ドル金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替取引によるコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上の為替取引によるコストとなる場合があります。

◆（為替ヘッジなし）は、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替相場の変動による影響を受けます。

特色5 年1回の決算時（4月20日（休業日の場合は翌営業日））に分配金額を決定します。

◆分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。

（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドのしくみ ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。

・ファンド・オブ・ファンズ方式とは、株式や債券などに直接投資するのではなく、複数の他の投資信託証券に投資するしくみです。

・ファンド・オブ・ファンズとは、一般社団法人投資信託協会が定める規則（「投資信託等の運用に関する規則」第2条）に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

【本資料で使用している指数について】

■ 米国ハイイールド社債：BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド インデックス

BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド インデックスとは、BofA Merrill Lynchが算出する米国のハイイールド社債の値動きを表す指数です。同指数に関する知的所有権、その他一切の権利はBofA Merrill Lynchに帰属します。BofA Merrill Lynchは同指数を参照して行われる当社の事業活動・サービスに関し一切の責任を負いません。

■ 米国投資適格社債：BofA Merrill Lynch 米国コーポレート インデックス

BofA Merrill Lynch 米国コーポレート インデックスとは、BofA Merrill Lynchが算出する米国の投資適格社債の値動きを表す指数です。同指数に関する知的所有権、その他一切の権利はBofA Merrill Lynchに帰属します。BofA Merrill Lynchは同指数を参照して行われる当社の事業活動・サービスに関し一切の責任を負いません。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）／（為替ヘッジなし）

【投資リスク】

基準価額の変動要因：ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク

主要投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、実質的に組み入れる有価証券等（バンクローンを含みます。以下同じ。）の価格変動の影響を受けます。公社債等の価格は、市場金利の変動の影響を受けて変動します。一般に市場金利が上がると、公社債等の価格は下落し、組入公社債等の価格の下落は基準価額の下落要因となります。市場金利の変動による公社債等の価格の変動は、一般にその公社債等の残存期間が長いほど大きくなる傾向があります。転換社債は、株式および債券の両方の性格を有しており、株式および債券の価格変動の影響を受け、組入転換社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

【デリバティブ（派生商品）の取引等に関するリスク】

デリバティブ取引等は金利変動、為替変動等を受けて価格が変動するため、ファンドはその影響を受けます。買い建てたデリバティブ取引等（ロング・ポジション）の価格が下落した場合、もしくは売り建てたデリバティブ取引等（ショート・ポジション）の価格が上昇した場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。特に、ロング・ポジションの価格が下落する一方、ショート・ポジションの価格が上昇した場合には、基準価額が大幅に下落することがあります。また、デリバティブ取引等は、少額の証拠金をもとに多額の取引を行うため、損失が発生した場合には、金利変動、為替変動等の影響が増幅され、多額の損失をもたらす場合があります。

為替変動リスク

主要投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、実質的に外貨建資産に投資を行います。

■ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）

原則として投資する投資信託証券において、当該投資信託証券の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、円に対する米ドルの為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。また、組入通貨のうち、米ドル以外の通貨については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けます。なお、円の金利が米ドルの金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替取引によるコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上の為替取引によるコストとなる場合があります。

■ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替ヘッジなし）

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受けます。

信用リスク

有価証券等の発行体等の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその懸念が高まった場合には、有価証券等の価格が下落（債券の場合は利回りが上昇）すること、利払いや償還金の支払いが滞ること、倒産等によりその価値がなくなること等があります。

流動性リスク

有価証券等を売買しようとする際に、その有価証券等の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。また、バンクローンは、公社債と比べ、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。

カントリー・リスク

ファンドは、新興国の有価証券等に実質的な投資を行うことがあります。新興国への投資は、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響などを受けることにより、先進国への投資を行う場合に比べて、価格変動・為替変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

低格付債券への投資リスク

ファンドは、格付けの低い公社債等に投資する場合があります。格付けの高い公社債等への投資を行う場合に比べて、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

上記は主なりスクであり、これらに限定されるものではありません。

■ その他の留意点

●ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。

●収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。

収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。

ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

■ リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

なお、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

＜投資対象ファンドの信用リスク管理方法＞

投資対象ファンドの管理会社および投資運用会社は、投資対象ファンドにおいて、欧州委員会が制定した指令（UCITS指令）に定めるリスク管理方法に基づき信用リスクを管理します。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）／（為替ヘッジなし）

【お申込みメモ】 **ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。**

購入時

購入単位

販売会社が定める単位
販売会社にご確認ください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額
※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。

換金時

換金単位

販売会社が定める単位
販売会社にご確認ください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。

申込について

申込不可日

次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。
・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行の休業日

申込締切時間

原則として、午後3時まで販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。

換金制限

各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。

購入・換金申込受付の中止及び取消し

金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象証券の取得および換金の制限、投資対象国・地域における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
また、信託金の限度額に達しない場合でも、各ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。

その他

信託期間

2027年4月20日まで(2017年6月14日設定)

繰上償還

各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。なお、各ファンドが投資対象とする外国投資信託のいずれかが存続しないこととなった場合には繰上償還となります。

決算日

毎年4月20日(休業日の場合は翌営業日)

収益分配

年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。)販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。

課税関係

課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）／（為替ヘッジなし）

【ファンドの費用】

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	信託財産留保額	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	<p>日々の純資産総額に対して、年率0.999%(税抜 年率0.925%)以内をかけた額</p> <p>各ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用(信託報酬)はかかりませんので、お客さまが負担する実質的な運用管理費用(信託報酬)は上記と同じです。</p> <p>毎月の最終営業日の翌日から、翌月の最終営業日までにかかる信託報酬率は、当該各月の別に定める日(東京証券取引所の休業日およびニューヨーク証券取引所の休業日を除く営業日で計算される最終営業日から3営業日前の日)における参照金利に応じて、各ファンドの純資産総額に対して、以下に定める率をかけた額とします。</p> <p>各ファンドについて、参照金利は以下の通りです。 (為替リスク軽減型)：無担保コール翌日物金利 (為替ヘッジなし)：フェデラル・ファンド金利誘導目標(上限値)(取得できない場合は、フェデラル・ファンド実効金利)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>参照金利</th> <th>信託報酬率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.0%以上</td> <td>年率0.9990%(税抜 年率0.9250%)</td> </tr> <tr> <td>1.0%以上2.0%未満</td> <td>年率0.9801%(税抜 年率0.9075%)</td> </tr> <tr> <td>0.5%以上1.0%未満</td> <td>年率0.9612%(税抜 年率0.8900%)</td> </tr> <tr> <td>0%以上0.5%未満</td> <td>年率0.9423%(税抜 年率0.8725%)</td> </tr> <tr> <td>0%未満</td> <td>年率0.9234%(税抜 年率0.8550%)</td> </tr> </tbody> </table>	参照金利	信託報酬率	2.0%以上	年率0.9990%(税抜 年率0.9250%)	1.0%以上2.0%未満	年率0.9801%(税抜 年率0.9075%)	0.5%以上1.0%未満	年率0.9612%(税抜 年率0.8900%)	0%以上0.5%未満	年率0.9423%(税抜 年率0.8725%)	0%未満	年率0.9234%(税抜 年率0.8550%)
	参照金利	信託報酬率												
2.0%以上	年率0.9990%(税抜 年率0.9250%)													
1.0%以上2.0%未満	年率0.9801%(税抜 年率0.9075%)													
0.5%以上1.0%未満	年率0.9612%(税抜 年率0.8900%)													
0%以上0.5%未満	年率0.9423%(税抜 年率0.8725%)													
0%未満	年率0.9234%(税抜 年率0.8550%)													
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料についても各ファンドが負担します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監査法人に支払われる各ファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・投資対象とする投資信託証券における諸費用 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 <p>※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。</p>													

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。
※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

ピムコ ショートターム・インカム・ファンド（為替リスク軽減型）／（為替ヘッジなし）

【販売会社一覧】

ファンド名称:ピムコ ショートターム・インカム・ファンド(為替リスク軽減型)／(為替ヘッジなし)

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社 佐賀銀行(為替リスク軽減型のみ取扱)	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
株式会社 三菱UFJ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
株式会社 三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○

本資料に関するご注意事項

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号 <ホームページアドレス>

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

<https://www.am.mufg.jp/>

一般社団法人 日本投資顧問業協会 <お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社